



Title	世界に貢献する環境保健を：大阪市の關淳一環境保健局長を訪ねる
Author(s)	出版編集室
Citation	大阪公衆衛生. 1993, 64, p. 8-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83823
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インタビュー

世界に貢献する環境保健を

大阪市の關淳一環境保健局長を訪ねる

出版編集室 張 知夫

張 お久しぶりです。この局長室からの堂島川の眺めはすばらしいですね。

關 でも、ここに座って景色を眺める時間は減多にないんですよ。今も、都島にできる総合医療センターの打合せに出かけていて、戻ってきたばかりです。

張 センターの開院は12月とうかがっていますが、もうすぐですね。

關 ええ、いま最後のツメの段階に来ています。

新しい総合医療センター

張 では早速その話からお聞かせ下さい。現段階で大阪市が約1,100ベッドの総合医療センターを建設される理由は？

關 いま大阪の市民病院は、桃山病院や小児保健センターなどを含めて8つあります。これらは戦前および戦後のいろいろな時期に

それぞれ固有の必要性から建設され、市民のニーズに応えてきたものです。

張 それらの病院が、かなり老朽化してきたわけですね。

關 それもありますが、人口の高齢化や、がん・心臓病・脳卒中の増加などの疾病構造の変化に伴って、医療の重点課題が感染性疾患から三大成人病に移りました。さらに救急医療、周産期医療、心身医療などの新しい分野がいくつも登場し、それに対応して医療の内容も非常に高度化してきました。そこで、どうしても新しい受け皿をつくる必要性が生じたわけです。

張 そのプランはいつから…？

關 昭和58年に市制100周年事業の一環として「市立医療機関の体系的整備」がとりあげられ、それを受けて昭和61年には「市立病院の新しい医療体制のあり方」についての基本答申が大阪市医療審議会から提出され、禰住局長の時代に骨格ができたわけです。したがってこの計画が始まってから、安川局長、禰住局長を経て、私は局長として三代目ということになります。

張 それにしても、約1,100床という規模は大変なことですね。

關 8病院のうち5病院を統合するのですから、これだけのベッド数は必要です。もちろん病床の数だけが問題なのではなく、センターとして質の高い医療を総合的に提供できるものでなくてはならないと、一同がんばっているところです。



「質の高い医療を」と關局長（右）

張 5病院を統合して1つのセンターにするというのは大変な仕事ですね。

關 まったく…。これは全国でも初めてのことだと思います。

張 今年の5月には、市立大学の新しい付属病院も開院しましたね。

關 大学病院と医療センターとは設置目的を異にしますが、市の南部に市大病院があり、北部に今度の医療センターがあるという配置はいいことだと思います。福島区にあった阪大病院が千里へ引っ越したことも考え合わせると、医療センターの開設は時宜にかなったのと言えるものではないでしょうか。

『いきいきエイジング』

張 これからの大きな課題として、高齢化にともない、お年寄りの健康問題がクローズアップされてきましたが…

關 それはもちろん、病院建設だけで対応できることではなく、市政全般の重要な問題でもあるわけです。市では平成2年に『いきいきエイジング、みおつくしプラン』を策定しました。これは1991年から2005年までの長大なプランで、この『みおつくしプラン』の前期の具体的な実施計画として、この9月に「大阪市高齢者保健福祉計画」を定め、環境保健局も民生局も、市をあげて計画の具体化に取り組みはじめています。

張 大阪市には大変ユニークな老人保健施設「おとしより健康センター」も出来ていますね。私は昨年まで府立看護短大に勤めていましたが、あのセンターで学生の実習をさせていただいたところ、学生が非常に喜んで、毎年楽しみにしているようです。

關 ええ、あそこのデータとノウハウの蓄積はたいしたものので、今後のプランニングの貴重な源泉になってくれます。

張 では、これからの中心課題は老人保健施設の建設でしょうか？

關 いえ、もっと総合的なものだと思いますね。老人保健施設については、さきにふれた「大阪市高齢者保健福祉計画」の中で平成11年（1999年）には公立・民間あわせて目標量を4,300床と設定しております。



「最近歩くヒマがなくて…」

張 『いきいきエイジング』ですから、いろんな問題が含まれてきますね。

關 そうなんです。たしかに大阪のような大都市では、土地の値段が高いために、老人保健施設の建設は遅れていますが、老健施設というのは特養（特別養護老人ホーム）と在宅との中間的なものですから、特養のほうの整備も考えなければならぬ。

張 それもまた、数だけの問題ではないですね？

關 スウェーデンのエテボリの老人ホームなどは、その建物の内部設備のハード面だけを見ても、実にすばらしいものですが、あのような良い老人ホームをつくるのが急務だと思います。

張 そうなると、単に老健施設の数の問題ではなく、民生、住宅、労働などのタテワリ行政の枠をこえて、非常に広い範囲のプランを統合的に進める必要がありますね。

關 そうです。しかも、その中心は市民の健康の保持と増進であって、それは私たち行政に携わるものの責任だと思っています。

UNEPとは？

張 環境保健局のカバーする範囲は、ものすごく広いですね。職員数は全部で何人くらいになりますか？

關 一番多いのは病院で約2,200人、次が保健所で1,000人余、その他を全部合わせると約4,000人になります。『環境保健局』ですから、環境関係の問題もなかなか大変です。

張 以前、この雑誌でも取材させていただいたことがあります。市の環境科学研究所は素晴らしい仕事をしておられますね。ところで、鶴見緑地にUNEP（ユネップ）国際環境技術センター大阪というのができたそうですが、これも環境問題と関係のある機関ですね？

關 UNEPは『国連環境計画』の略語で、本部はアフリカのナイロビにあります。これは、国際連合内外の環境問題に関する活動の調整と促進を行う国連の機関です。そのUNEPの内部機関の一つである「環境技術センター」が、開発途上国の環境保全のための技術移転を目的に、このたび滋賀と大阪に設置されたわけで、滋賀のセンターでは世界の淡水湖沼集水域の環境問題を、大阪のセンターでは世界の大都市の総合的環境問題をあつかうことになっています。

張 そういう国際機関を大阪市が誘致したということですね？

關 そのとおりです。「人間と自然との共生」をテーマとして開催された花博の鶴見緑地に誘致したわけで、先般センターの建物も完成し、10月18日に竣工式典が行われました。大阪府・大阪市では「財団法人地球環境センター」という法人を設立し、今後ともこのUNEPセンターの仕事を全面的に支援することになっています。

張 たしか、9月の国連総会に出席した細川首相も、演説のなかで言及しておられましたね。

關 「日本の開発する環境技術を、日本のUNEPセンターを通じて途上国へ技術移転する」と明言しています。

張 かつて公害都市といわれた大阪が、こんな形で世界の環境保全に貢献できるというのは素晴らしいことですね。

關 そうそう、このセンターの建物自体が「人と環境にやさしいシンボリックな施設」をキーコンセプトにした、なかなか面白い建築なんです。ぜひ一度ごらん下さい。

原風景はクジラの太地町？

張 ところで、関局長はかなりのスポーツマンとお見受けしますが…？

關 学生時代には一通り、いろいろやりました。いまは「歩くこと」が趣味とでも申しましょうか。ただ、最近あまり歩いていません。病院勤めをしていると、いやでも毎日かなりの距離を歩いたものですが…

張 医師としての局長は、もともと内科がご専門でしたね？

關 ええ。大阪市大医学部の出身で、母校に長く勤めていました。医師としての第1年目は、和歌山県太地町の町立診療所に派遣されたんです。

張 あのクジラで有名な太地町？

關 そうです。ここでは先輩医師が2人、私、合計3人ですべてのことをカバーしなければなりません。そういう所で、技術だけでなく町民の生活そのものを学ぶことを覚えしました。

張 医師としての関局長の原風景は太地町ということになりそうですね。

關 そうかも知れません。本当にいい勉強になったと思っています。

張 そのあとは、ずっと大学におられたのですか？

關 ええ、市大の内科に長くいたのですが、途中で淀川キリスト教病院に勤めたこともあ

ります。ブラウン先生たちを中心とするあの病院の診療方式からも、多くのことを学びました。昭和60年からは市立桃山病院に移りましたが、平成3年に医務監として環境保健局の仕事をするようになり、昨年局長を拝命したわけです。

張 内科も範囲が広いのですが、とくにどのような専門領域で？

關 和田正久教授のもとで、糖尿病の研究と診療を中心にやってきました。

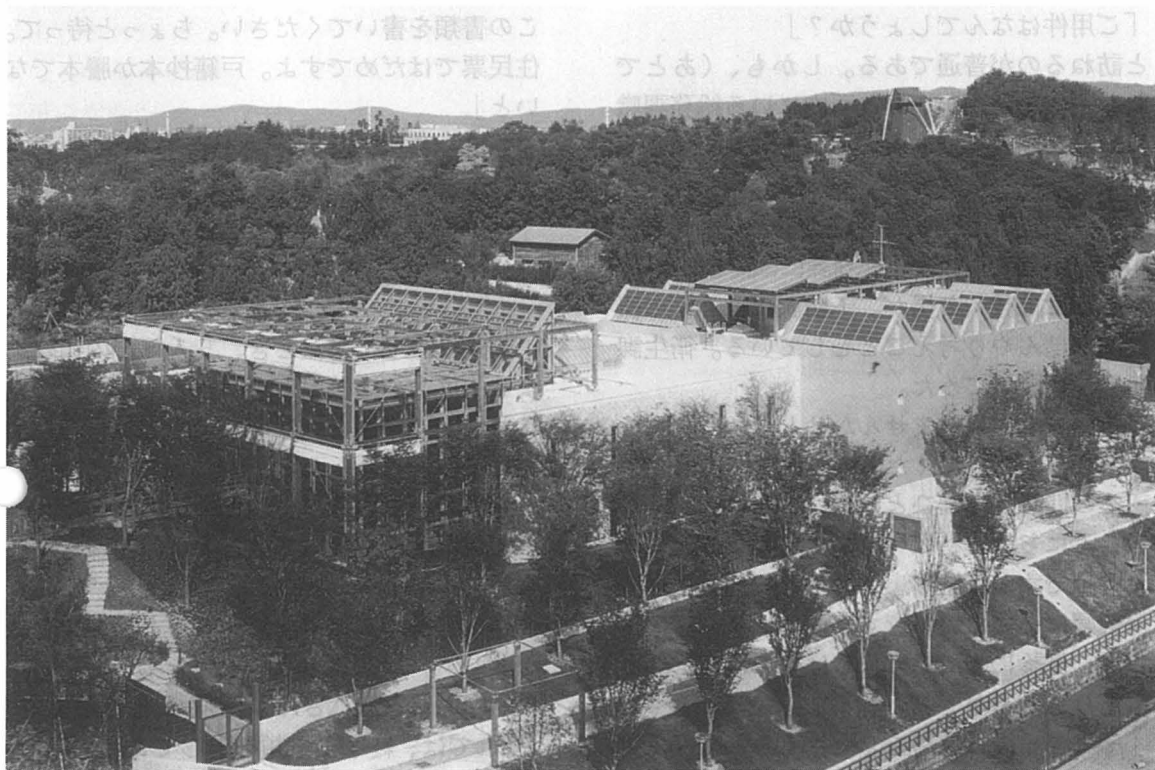
張 和田先生は私も存じ上げていました。研究にも熱心だが、患者さんの診療を大変重視しておられましたね。そして、大学病院に医療ソーシャルワークを導入しようと努力していらっしゃいました。

關 その和田先生から、私はミッチリ仕込まれたわけです。

張 そんなに長く臨床医学に携わっておられたあとで、行政の仕事に移るのはお嫌ではなかったですか？

關 臨床医学に未練がないといえば嘘になります。しかし臨床だけが医学だとも考えていません。市民のために、したいことがいっぱいあるという気持ちです。

張 「市民のため」が大阪市のモットーとする「世界に貢献する大阪」につながるわけですね。世界に貢献する環境保健づくりをめざして、局長のご健闘を祈ります。きょうは本当にありがとうございました。



U N E P 国 際 環 境 技 術 セ ン タ ー 大 阪